

経済動向調査レポート

令和 7 年 第 1 四半期

(調査対象：令和 7 年 1 月～3 月)

福崎町商工会

令和 7 年 6 月

【目次】

I. 経済動向のポイント	2
II. 兵庫県の経済・雇用情勢	3
1. 概況（全体の状況）	3
2. 県内の主要業種の概況	8
3. 地域の概況	10
III. 景況調査	19
1. 景況調査について	19
2. 概況（全業種）	20
3. 業種ごとの集計	22
①製造業（有効調査数：178 件）	22
②サービス業（有効調査数：76 件）	23
③不動産業（有効調査数：31 件）	24
④小売業（有効調査数：65 件）	25
⑤卸売業（有効調査数：48 件）	26
⑥建設業（有効調査数：97 件）	27

○本レポート作成の目的

地域の経済・消費動向の現状を把握し、その情報を提供することで小規模事業者が経営方針を明確にし、経営分析および事業計画の策定に有効活用できるようにし、小規模事業者の売上や利益の増進に繋がるなど経営基盤の強化につなげることを目的とします。

○本レポートの作成方法

福崎町商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に他の調査や情報とも比較してレポートを作成します。

I. 経済動向のポイント

【全体概況】

兵庫県の経済・雇用情勢は、一部に弱さが見られるものの、緩やかな回復基調を維持している。個人消費や設備投資は持ち直し傾向、生産・輸出は横ばい圏、雇用・所得環境も緩やかに改善中。企業倒産件数や負債総額は概ね安定。

【業種別動向】

非鉄金属・輸送機械・電気機械・宿泊業などで景況感が良好。一方で、はん用機械・食品加工・業務用機械では中国経済や資源価格高騰などの影響を受け、厳しさが続く。価格転嫁の進捗や設備投資の再開も業種により差がある。

【地域別動向】

神戸・阪神南では製造業が苦戦、播磨・但馬では製造業の回復基調が見られるが、消費マインドの鈍化や人手不足が課題。福崎町商工会の業況DIもマイナス圏にあり、今後の先行き不透明感が継続。

【今後の展望】

万博やインバウンド回復への期待がある一方、物価上昇・円安・国際情勢など外部リスクが消費や投資を下押しする可能性がある。引き続き、価格転嫁の進捗、雇用環境の改善、サプライチェーン強化が地域経済の鍵。

【ポイント強化①：個人消費とインフレ動向】

物価上昇は家計の購買力を圧迫し、消費マインドを抑制しているが、一部高付加価値商品や旅行・外食分野では回復傾向がみられる。宿泊業ではインバウンド需要が急回復し、特に中国・韓国・台湾からの団体客の増加が顕著。万博需要や神戸空港国際化による波及効果により、関西圏の観光・サービス業の景気押上げが期待される。

【ポイント強化②：製造業の課題と展望】

製造業では中国経済の停滞、原材料価格高騰、半導体需要調整など外的要因が影響。一方で、チタンや高機能材料など先端分野では堅調な需要も見られる。生産体制の再構築や研究開発投資によって、技術優位を維持することが不可欠。電気機械、輸送機械はカーボンニュートラルや水素社会への対応がカギとなる。

【ポイント強化③：雇用と人手不足】

全業種に共通する課題として「人手不足」が深刻。特に若年層や理工系人材の確保は製造業・IT関連で困難を極めている。一部ではAI・ロボット導入による省人化の取組も進むが、中小企業では投資余力の限界もある。雇用の流動性が高まる中、職場環境改善や待遇強化による定着率向上策が求められる。

II 兵庫県の経済・雇用情勢（「兵庫県の経済・雇用情勢」（令和7年4月18日）から引用）

1. 概況（全体の状況）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。 景況等…企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。 需 要…個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。 輸 出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、増加計画にある。 生 産…生産は、横ばい圏内で推移している。 雇 用…雇用・所得環境は、緩やかに改善している。 金 融…倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。
--

主要指標の推移

①景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区 分	R6.6月	R6.9月	R6.12月	R7.3月	R7.6月(予測)
全産業	15	14	13	12	5
大企業	16	17	17	19	15
中堅企業	17	14	12	9	6
中小企業	14	13	11	10	0
うち製造業	9	5	7	7	▲1
うち非製造業	23	25	19	19	13

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

②需要

項 目	R4 年度	R5 年度	R6.10月	R6.11月	R6.12月	R7.1月	R7.2月
商業販売額：億円 （前年度比増減率%）	18,529 (+2.8)	19,168 (+3.4)	1,570 (▲0.5)	1,614 (+2.6)	1,955 (+3.6)	1,572 (+2.3)	1,452 (▲0.1)
乗用車販売台数：台 （前年度比増減率%）	144,966 (+2.4)	156,197 (+7.7)	14,187 (+5.1)	14,292 (+5.1)	11,425 (▲6.2)	14,298 (+18.5)	15,079 (+17.8)
新設住宅着工数：戸 （前年度比増減率%）	31,911 (+6.9)	28,622 (▲10.2)	1,957 (▲39.6)	2,396 (+5.3)	2,059 (▲10.9)	2,182 (+42.0)	2,528 (+11.5)
神戸港輸出額：億円 （前年度比増減率%）	73,698 (+19.8)	75,219 (+2.1)	6,510 (▲0.2)	5,795 (▲9.4)	6,955 (+0.9)	5,092 (+2.5)	6,272 (+6.7)

（出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

項 目	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （見込）	R7 年度 （計画）
設備投資額（前年度比増減率：%） （R2 年度比：R2=100）	▲4.5 (95.5)	9.3 (104.4)	2.6 (107.1)	9.4 (117.2)	10.3 (129.2)

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

③生産

項 目	R4 年度	R5 年度	R6. 9 月	R6. 10 月	R6. 11 月	R6. 12 月	R7. 1 月
鉱工業生産指数：R2=100 (前月比増減率%)	101.8 (+0.4)	96.9 (▲4.8)	98.1 (+2.3)	98.2 (+0.1)	96.1 (▲2.1)	97.5 (+1.5)	98.4 (+0.9)

(月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較)

(出所) 兵庫県鉱工業指数 (県統計課)

④雇用

項 目	R4 年度	R5 年度	R6. 10 月	R6. 11 月	R6. 12 月	R7. 1 月	R7. 2 月
有効求人倍率(季節調整値)：倍	1.03	1.02	1.01	1.00	0.99	1.00	0.99
新規求人数(原数値)：人 (前年度比増減率%)	29,795 (+5.5)	28,838 (▲3.2)	31,458 (▲1.4)	26,033 (▲3.1)	27,316 (▲6.1)	31,321 (+0.0)	27,854 (▲5.4)
雇用者所得計：円 (前年度比増減率%)	5,510 (+3.2)	5,719 (+3.8)	5,234 (+8.8)	5,549 (+8.2)	10,420 (+3.0)	5,082 (+3.4)	— (—)

(有効求人倍率の年度値は原数値、現金給与総額の年度値は年平均) (出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省

兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

⑤金融

項 目	R5 年度	R6 年度	R6. 11 月	R6. 12 月	R7. 1 月	R7. 2 月	R7. 3 月
企業倒産件数：件 (前年度比増減率%)	568 (+54.4)	571 (+0.5)	47 (▲23.0)	47 (▲4.1)	57 (+11.8)	49 (+6.5)	52 (▲13.3)
企業倒産負債総額：億円 (前年度比増減率%)	6,808 (+948.6)	535 (▲92.1)	24 (▲50.9)	52 (+79.7)	33 (▲8.5)	55 (+60.7)	30 (+3.3)

(出所) 兵庫県企業倒産状況 (東京商工サーチ神戸支店)

(参考1)全国景気の現状についての内閣府のコメント

景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。

- ・ 個人消費は、一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 設備投資は、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 輸出は、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 生産は、横ばいとなっている。
- ・ 企業収益は、改善している。
- ・ 雇用情勢は、改善の動きがみられる。
- ・ 消費者物価は、上昇している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響や、通商政策などアメリカの政策動向による影響などが、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

(令和7年3月19日 内閣府「月例経済報告」)

(参考2)県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント

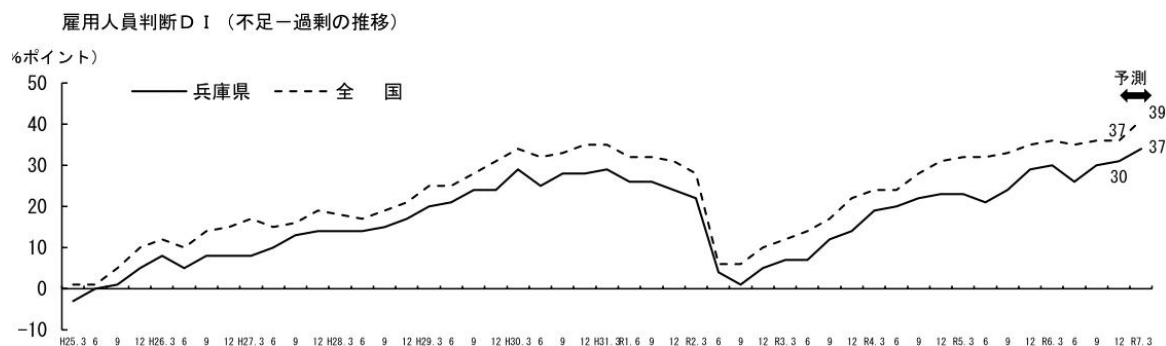
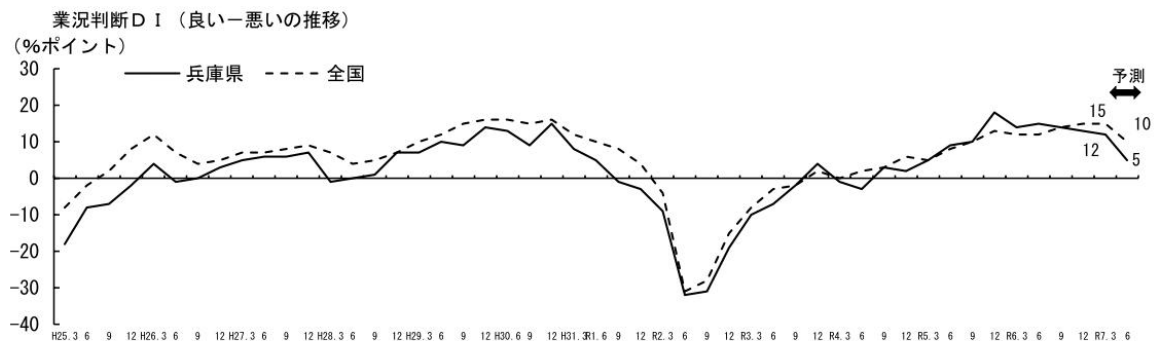
管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

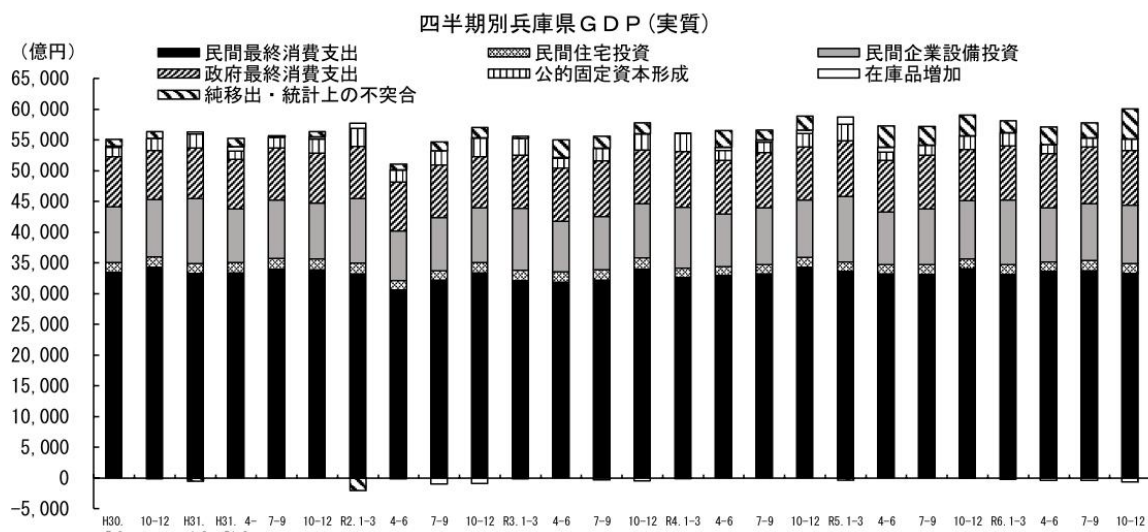
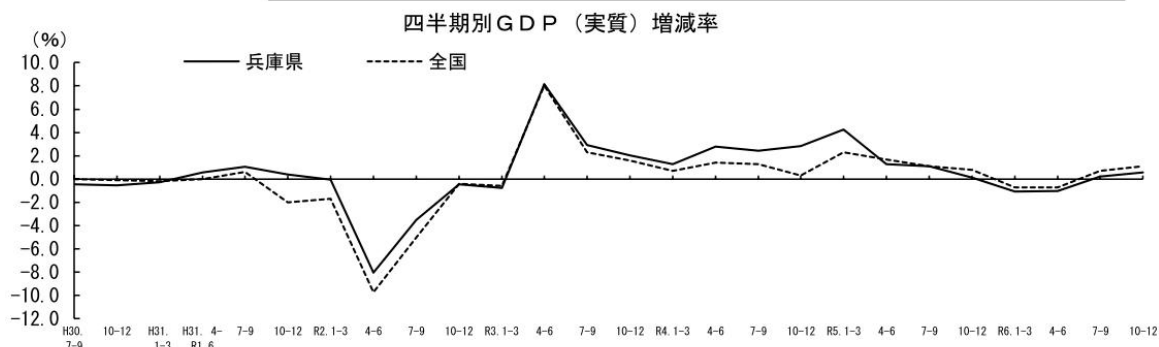
(令和7年4月15日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

日本銀行神戸支店県内企業短期経済観測調査結果の推移



出所：令和 7 年 3 月 全国・県内企業短期経済観測調査（日本銀行、同神戸支店）

GDP ⇒ 実質 GDP（R6.10～12 月期）は、公的固定資本形成、在庫変更に加え、新たに民間最終消費支出、民間住宅投資がマイナスに転じた。一方、民間企業設備投資、地方政府等最終消費支出が引き続きプラスで推移したほか、純移出等がプラスに転じたため、対前年同期比は 0.6%と 2 期連続でプラスとなった。



出所：四半期別 GDP 速報（内閣府）、四半期別県内 GDP 速報（県統計課）

兵庫県・四半期別GDP(実質)(億円、増減率%)

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
GDP(実質)	223,215	216,224	223,736	230,674	231,384
前年度比	0.5	▲3.1	3.5	3.1	0.3

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12
GDP(実質)	58,903	58,507	57,270	57,238	58,990	57,886	56,691	57,374	59,334
前年度比	2.9	4.3	1.3	1.1	0.1	▲1.1	▲1.0	0.2	0.6

兵庫県・四半期別GDP(名目)(億円、増減率%)

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
GDP(名目)	224,201	219,401	226,324	234,626	243,319
前年度比	0.9	▲2.1	3.2	3.7	3.7

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12
GDP(名目)	60,455	59,453	60,352	59,766	62,722	60,479	61,501	61,497	65,196
前年度比	3.8	5.6	4.5	4.9	3.7	1.7	1.9	2.9	3.9

注1) 今後公表される年度確報値とのあいだに若干の差異が生じる場合がある。

また、推計精度をより高めるため、各計数は過去にさかのぼって変更されることがある。

前年度比は原数値の増減を示す。

注2) 数値は、平成27年基準値となっている。

注3) 令和4年度までの年度数値は「県民経済計算」(県統計課) 令和5年度の年度数値は「四半期別GDP」(県統計課)

2. 県内の主要業種の概況

【令和7年2月調査】

業 種	概 況
非 鉄 金 属 製 造 業	景況感は良い。3ヶ月後も同様。航空機及び一般産業分野ともにチタン需要が回復から成長軌道に移行している。ロシア・ウクライナ情勢による世界的なサプライチェーン再編の影響から、特にスポンジチタンの需要は拡大基調にあり、2023年度から現在に至までフル操業で精算中。 半導体の被膜など高機能材料についても、半導体市場の調整が続いているものの、一部取引先のターゲット材用のスポット受注による増が見られたほか、積層造形市場に置いても、医療分野に加え、航空分野でも需要増加が見込まれる。
輸 送 用 機 械 製 造 業	景況感が良い。3ヶ月後も同様。船舶海洋部門では、LPG/アンモニア運搬船当の建造を中心に好調であるほか、エネルギー・プラント部門では、国内のごみ焼却設備の老朽化更新や分散型電源の需要が継続しており、第3四半期の受注高、売上、利益は、いずれも前年同期と比較して増加している。 先進国を中心に水素製品をはじめとした脱炭素ソリューションに関する受注・引合いが増加しており、引き続き水素関連の商用化実証を着実に進めていくとともに、水素社会実現に向け、混焼可能なガスタービン・ガスエンジン等による「水素Ready」を提案していく。 また、昨今の物価上昇に対して、サプライヤーからの値上げ要請に適切に対応しつつ、当社としても適切な価格転嫁を顧客に働きかけ、サプライチェーンの維持に努めていく。

【令和7年3月調査】

業 種	概 況
化 学 工 業	売上、利益は前年を上回っており、景況感も悪くない。付加価値の高い商品へシフトしたことや価格転嫁の進展もあり、利ざやが改善している状況。受注、需要も好調であるが、今後の見通しは不透明な点がある。 雇用人員は適正な状況で、求人募集も一定の応募がある状況。製造ラインでは、自動化等の取組も進めている。
は ん 用 機 械 製 造 業	昨年度は景況感が悪く、今年度も同様の予測であったものの、対前年度で見るとここ最近少し上向き傾向になっている。特に中国向けの製品が足元で上向き傾向で、景況感の回復にもつながっている。 中国市場が悪い状況が続いていたものの、足元で需要が少しずつ増加していることもあり、受注も増加傾向。今後も緩やかに回復していくのではないかと。 昨年度は業績が厳しい影響もあり、設備投資を絞っていたものの、今年度は昨年度と比較すると上向き傾向であることから、設備投資も

	対前年度で増加計画となっている。老朽化更新や研究開発関連の投資を実施する。
そ の 他 業 製 造	2024年度の営業利益は過去最高で、利益率も大幅に上昇したこともあり、景況感の良い。事業の選択と集中を行ったことにより、売上、営業利益の増加に繋がった。国内、海外事業共に好調に推移しており、円安の影響もあり、インバウンド需要も好調。今後も同様の状況が続くと考えている。 雇用人員については適正な状況で中途採用も適宜実施している。新規採用の初任給が上昇していることもあり、連動して既存社員の給与もアップしている。
電 気 機 械 製 造 業	市況が上向き傾向であることもあり、景況感の良い。3ヶ月後も同様の状況が続くだろう。売上、利益は前期と比較すると増加傾向で、受注も同様の状況。需要が堅調に推移している。 円安、原材料価格の高騰により、業況にはマイナスの影響が生じている。輸入品の値上がり機長が続いており、原材料価格は市場価格が高止まりしている。 設備投資は前年度並の計画で、老朽化対策やカーボンニュートラル関連の投資を引き続き実施予定。
宿 泊 業	景況感の良い。3ヶ月後も同様。2024年度下期の稼働率は、ようやくコロナ前の状況に戻りつつある。来月以降の万博需要は旺盛で、特に西からの団体客の予約が堅調に伸びており、個人客は今から伸びてくると思われる。 インバウンド需要は中国、韓国、台湾が多い。万博に加え神戸空港の国際チャーター便就航の効果で団体客が戻ってきつつあり、来月以降の団体きゃうkの予約状況は、コロナ禍後の平時のおよそ倍になっている。エネルギー価格や、食材等あらゆる物が高騰しており、万博の影響もあって今後も大阪を中心に関西圏のホテル業界全体で価格が上昇してくると思われる。
そ の 他 製 造 業	景況感の良い。3ヶ月後も同様。温水空調分野では、上期に振るわなかった住宅向け温水器が下期に回復したほか、非住宅分野では、環境意識の高まりからホテルや病院等でボイラーから業務用ガス給湯器へ取替需要等が好調。厨房分野では、ビルトインコンロの中高級品（高機能化商品）比率の増や、家電量販店等への販売チャネル拡大によりレンジフードが好調。 雇用人員は適正。価格転嫁については、1月に価格改定を行い、原価分については吸収できている。

兵庫県産業労働部調査

3. 地域の概況

【令和7年2月調査】

地 域	業 種	概 況
神 戸	道 路 旅 客 運 送 業	コロナ禍以降、営業利益自体はあまり回復していないが、昨年と比較すると若干向上している。東京などの首都圏では、配車アプリの利便性が浸透し、これまで把握できていなかった需要が増加したことでドライバー数も増加傾向にあるが、神戸はそこまでではない。 東京資本の大企業が独立系の小さな会社を買収している。いずれその面的支配が拡大し、電鉄系の会社を飲み込んでいくだろう。自動運転による運行が現実味を帯びてくれば、電信系の技術力、資本力が大きくものを言うようになるのでは。
	ゴ ム 製 品 製 造 業	この半年の間で組合員が2割近く減少した。年3回開催している展示会の出展企業も半減している。1月の展示会では、共催のサンダル業組合からは出店がなかった。コロナ禍後も1,200人ほどの問屋やアパレル関係者が来場していた展示会だが、直近では3分の2程度まで落ち込んでいる。 展示会で商談をまとめ受注するという方法では商売が難しくなっている。百貨店や路面店などの対面販売は右肩下がり、今や通販やネット販売でないと売れない。実質賃金は上がっていても、急激な物価高に購買意欲が追いついていないのか、消費者の買い控え傾向はまだしばらく続くだろう。
阪神南	食 料 品 製 造 業	前期と比べ、売上高・利益ともに10%程度減少しており、原材料価格高騰の影響により景況感はさほど良くない。 原料は、需要が供給を大きく上回り価格の高騰が激しい。価格は一年前と比較して約2~3倍に高騰しており、為替の影響も相まって、今後の売上高・収益にマイナスの影響を与える見込みである。原料高騰への対応として、諸経費の削減や代替材料の利用、新商品のための設備投資などに力を入れている。
	金 属 製 品 製 造 業	前期より利益に変化はないが、売上高が5%減少し景況感は悪い。 半導体の供給不足や国際情勢の影響を受け、自動車・家電・建設関連産業で減産・停滞の影響が続いており、受注量が全体で10%程度減少している。 諸経費や輸送コスト削減、まとめ生産などの施策を展開し、歩留まり向上を図っている。 また、稼働時間の短縮や製品毎の利益状況を確認

		し、下請法のもと１点１点根気強く価格交渉を実施している。
阪神北	生 産 用 機 械 器 製 造 業	第４四半期は、景況感としてはさほど良くない状況である。価格転嫁も一部では進み、売上は前年同期と比較し変化はないものの、為替の影響による原材料高により利益が減少している。特に中国向けの機器販売が低迷しており、中国経済減速の影響を受けているとともに、国内では大手繊維会社の繊維事業からの撤退もあり、今後も不透明感が漂っている。 原材料価格が高止まっているほか、原材料品の中には収益悪化により、取り扱いを止める原材料もでており、代替品の調達に苦慮している。
	食 料 品 製 造 業	食品の値上げ等による消費減少の中、円安により原材料価格が高騰しており、経営面での影響を大きく受けている。価格転嫁が進み前年同時期と比較し、利益率は上昇したものの、景況感としてはさほど良くない状況である。原材料は輸入の割合が高く、為替の影響を大きく受けることから、国際情勢の動向による不透明な状況が続くと思われる。 海外出張の縮減などによる経費削減等の徹底に努めていく。
東播磨	不 動 産 取 引 業	長引く物価高騰に、賃金引上げが追いついておらず、景況感はさほど良くない。原材料価格の高騰による影響は、販売価格等の値上げをすることで対処しており、売上高や利益等に大きな影響は出ていないものの、買い控えの傾向はある。 雇用人員については、昨年度は不足していたものの、離職が少ないため、現在は適正である。エンゲージメント調査や賃上げを実施するなどして、定着率の向上に取り組んでいる。
	金 融 業	取引先企業の景況感は、持ち直しつつあるものの、原材料価格の高騰や人手不足の影響を受け、今後の見通しは悪化する業種が多い。また人手不足については、ロボットや機械の導入により、対応している事業所は増えているものの、多くの事業所は苦慮している状況である。 労働人口の減少に加え、転職率が増加している昨今の雇用状況のなか、当行としては育休・産休の制度を整え、女性が働き続けやすい環境づくりに力を入れており、女性の離職者は少ない状況である。
北播磨	化 学 工 業	売上に大きく影響する新車販売状況は、コロナ禍以降、若干増加したものの、カーシェアリング、ライドシェアリングなどのシェアリングエコノミーの影響もあり、国内新車販売の頭打ちが鮮明となるなど、景況

		感はさほど良くない。今後は、新興市場での販売増が予測されるグローバルな自動車市場の成長を見据え、新たな市場開拓へ挑戦する。 また、継続交渉中であった価格転嫁については、一定の進展はあるものの、道半ばであり厳しい状況は変わらない。 雇用面については、特に必要な理数系（化学）の人材が大企業へ流れるなど、厳しい状況が継続している。
	業 務 用 機 械 器 具 製 造 業	最大手取引先の販売先である中国の不動産不況による建設機械の需要低迷、競合他社（海外含む）との競争激化による受注量の減少に加え、原材料価格の高騰などが大きく影響し、景況感は悪い状況である。 価格転嫁についても、競合他社（海外含む）との競争激化も働き、経過は思わしくない。 雇用面では、大幅な減産状況が続き、人力的には過剰傾向にあるものの技術承継、退職補充の観点から継続募集を行っているが、応募状況は思わしくない。
中播磨	電 気 機 械 器 具 製 造 業	R 6 年度上期まで続いた紙幣刷新に伴う製品更新や、保守管理業務の特需の収束に伴い、直近の景況感はさほど良くない。今後は保守管理の売上に期待する。また、長期的には国内外での人件費高騰、労働力不足に伴う省人化や、業務効率化に対応する製品の堅調な需要が見込まれる。 円安の影響は、外貨建て収益の円換算時の増収効果がある一方で、原材料価格の高騰による原価率の悪化を招いている。原材料費高騰に伴う価格転嫁については、国内市場では一定程度進んでいるが、海外市場では長期契約が多いことからあまり進んでいない。 雇用面では、新卒はほぼ計画通り採用できている。IT、DX 関連の技術者については、これまで以上に積極的に採用を進めたい。
	産 業 用 機 械 器 具 製 造 業	景況感は悪い。主力の半導体製造用機械については、半導体製造装置メーカーが依然として在庫を抱えており、その影響で受注は減少している。中長期的に半導体市場はさらなる成長が期待されるが、先行きの不透明感から回復時期は見通せない。来たる受注に向け人員整理等は行わず、その間に生産部門社員の多能工化や、教育研修を行っている。原油・原材料の高騰も、引き続き、売上、収益に影響を及ぼしている。価格転嫁を進めているが顧客との関係柄、全ては転嫁できない。 雇用面では、新卒採用について充足率は5割程度となっており、新卒及び優秀なエンジニアの採用は厳しい状況が続いている。

西播磨	は 機 械 用 製 造 具 業	景況感が良い。室内装飾関連やエネルギー関連事業が好調で、業績を牽引している。一方で、住宅着工件数の減少傾向が続いていることなどから、3ヶ月後の景況感については、予断を許さない状況である。 ものづくり補助金等、補助制度を活用した顧客からの受注については一巡した感があるものの、ユーザーに対する経営と生産の近代化提案を強化し、自社の強みを活かした事業展開を行うこととしている。
	金 融 業	景況感は現時点で悪い。EV シフトについて国内外で一部見直しの動きが見られるなど、自動車関係の情勢の変化があったほか、アフターコロナにおける物流関連業界の変化等が影響したもの。3ヶ月後の景況感については、持ち直すものと予測している。 銅や鋼材などの原材料価格の高止まりが続いているものの、価格転嫁を実施することができており、新たな製造機械の設置等、設備投資についても積極的に行っている。
但馬	銀 行 業	管内企業について、多業種で原価上昇による価格転嫁に課題を持つ企業が多く、景況感はあまり良くない。雇用面では、応募母数が少ない状況で高齢化による退職が生じ、人手不足が続いている状況。 事業者向けの融資について、補助金等の利用による設備更新等で設備資金が増加傾向、公的融資制度が終了に伴い運転資金は減少傾向にある。しかし、全体的な融資件数、融資額に大きな変化は見られない。消費者向けの融資についても一定のニーズがあり、大きな変化は見られない状況。
	金 属 製 品 製 造 業	主要取引先の製品増強が継続しており、自社製造金属製品の需要の増加が継続している状況。また、原材料価格の高騰について、価格増加分は取引先との協議により概ね価格転嫁を達成しているほか、端材再利用による水平リサイクルの推進など、原材料コストの低下に取り組んでいるため、高騰による経営への影響はないといえる。 雇用について、雇用人員は充足しているが、定年退職等の自然減少分を補うため、通年で経験者採用を実施している。
丹波	金 融 業	景況感はさほど良くない。投資市場の活性化および顧客の高齢化による相続・贈与により、預金残高が減少している。取引先では、製造業において景況があまり良くない状況である。 人材面では、自社も含め若手従業員の不足が大きな課題となっているが、中小企業は経営的に初任給の引き上げなど待遇面の改善が困難な状況となっている。 また、今後の関税の状況が、管内の自動車部品製造

		業等に与える影響について懸念している。
淡路	サービス業	昨年度同期比において、売上・利益ともやや減少しており、景況感はさほど良くない。以前多かった団体客については、旅行スタイルが個人・グループ旅行へ変化するとともに、バスの運転手不足や食事施設の減少等により、今後もコロナ禍前には戻らない予測である。原油・原材料価格の高騰については、業況等へマイナスの影響を与えているとともに、客離れの影響等を危惧し、コスト上昇分を十分に価格転嫁できていない状況が続いている。人手不足対策として、AI を搭載した機械を導入し、省人化を図っている。
	食料品製造業	島内への観光客等は増加しており売上は多少好調であるが、輸入品の運送費や原材料価格の高騰が利益を圧迫しており、コロナ禍前に戻っているとは言えず、景況感はさほど良くない。雇用については、人材不足が続いており、募集をしているものの応募はほとんどない状況である。また最低賃金の引上げによる103 万円の壁などの影響で、労働時間を調整せざるを得ず、繁忙期に必要な人手が確保できなくなるなど経営課題となっている。 また、業務改善・構造改善の取組については、集中的な製造による時間コスト削減などに取り組んでいる。

【令和7年3月調査】

地域	業種	概況
神戸	食料品製造業	日本酒造組合中央会によると、1月の清酒出荷量は前年比3.7%増、輸出量は2024暦年ベースで6.4%増だが、気候的な変動もあり、景気の良し悪しとしてはどちらともいえない。 2024 年度日本酒の売上は前年比で家庭向け97%、飲食店向け103%となった。家庭用では、実質賃金の低下傾向が続くなか、低価格志向が強まっている。 コロナ禍以降、酒のトレンドが低アルコール、ハイボールとなっているため、日本酒を炭酸水で割ったサケハイやスパークリング清酒商品の投入など新しい飲み方の提案を行っている。
	食料品製造業	商品の値上げにより、購入量が減少している。物価高の影響で消費者の買い渋りが起きている。繁忙期は12月と3月、ここで生産量の7割を占める。繁忙期の売上を見ても、下落が続いている。 高齢を理由に廃業してしまう生産農家が増えている。国による小麦の備蓄は3ヶ月分しかなく、輸入が止まればこの業界は立ち行かなくなるため、強い問題

		意識を持っている。
阪神南	飲料・たばこ・飼料製造業	前年同期と比べ、売上高・利益ともに増加しているが、原材料価格高騰の影響により、景況感はさほどよくない。 商品への価格転嫁ができない状況のため、一部商品をコストの低い瓶へ変更し、電気・ガスの使用量削減等の業務改善に取り組んでいる。 また、業界全体として、原材料価格高騰の影響を受けている。特に、米の値上げ率の高さからみると、規模の小さい事業者は確保も難しい状況になると懸念される。
	はん用機械器具製造業	前期と比べ、売上高は約40%増加したが、円安による原材料価格高騰のため利益は減少している。 米国の輸入品への関税率が不透明で、輸出の動向が読めない状況である。今後、中国に対する関税が厳しくなり、対抗として報復関税が実施されると、日本と中国との輸出・輸入にも影響がでることが懸念される。設備投資では機械工作用設備を増設。 電力関連は、水素・アンモニアなどのエネルギー転換の機運が高く、設備投資も活発化すると予測される。
阪神北	金属製品製造業	コロナ禍において、サプライチェーンや物流機能の混迷により、発注元が在庫を積み増した反動から、受注が大幅に低下し、売上も大きく減少していたが、最近ではサプライチェーンにおける過剰在庫も適正水準となり、前年同期との比較では受注も回復し利益率は大幅に回復した。しかしながら、今後については、中国経済の低迷や、米国の関税政策の動向による自動車関連部品製造に対する影響など、不透明感が漂っている。
	各種小売業	顧客としては、高齢者が多い地域であるが、全体的には、商品価格が上昇していることにより売上は伸びている。また、仕入れ価格は概ね転嫁できており、利益も確保できている。 設備が老朽化していたことから更新を行っており、省エネ等によるコスト低減効果が期待される。
東播磨	化学工業	主力製品の数量が出ておらず、出荷品目も減っており、売上高・利益にマイナスの影響があるため、景況感はさほど良くない。 雇用については、昨年度と比べて新規採用の確保に苦慮している。これまで、幅広く全国の学生に募集をかけてきたが、地元志向の若者が増えており、全国か

		らの応募が減ってきている。今年度は地元就職を希望する若者を対象とした、学生向け職業体験の受け入れなどを始めたところである。
	鉄 鋼 業	自動車向け製品の販売量が減少し、売上高・利益ともに減少しており景況感は悪い。加えて、原材料の多くを輸入しているため、円安のまま停滞している現状はマイナスに影響している。 雇用については、定年による退職が増加しており、その要員補充のため、新規採用を昨年度よりも多く採る計画である。地元就職を希望する学生が増加傾向にあるが、県内外問わず幅広く募集をかけ、人材確保に注力している。
北播磨	織 維 製 品 製 造 販 売 業	外出需要の増加により、全体的には緩やかな回復基調ではあるが、原材料費の高騰や物流費の増加、人件費の上昇等が経営を圧迫しており、景況感はさほど良くない。 また、少子高齢化・人口減少の影響も大きいことから、拡販を目的とした海外展示会を積極的に展開しており、今後の成果を期待している。 雇用については、売り手市場の影響も働き、内定辞退が発生するなど、厳しい状況が継続しているが、新規事業の開始に向け、引き続き、人材確保に取り組んでいく。
	電 機 機 械 器 具 製 造 業	半導体不足時に先行手配した部品の在庫整理も一段落したが、受注の減少など景気の悪い状況が継続しており、回復状況には至らず景況感は悪い。現在は、更新事業を中心に稼働しているが、技術力と設備力を生かし、自社ブランド製品の製造・販売にも注力していく。また、主として海外からの部品調達であることから、為替変動は大きく影響する。 雇用人員については、過剰傾向ではあるが、今後を見据え、新規採用は引き続き取り組んでいる。
中播磨	総 合 工 事 業	売上については、入札状況に左右されるため案件の内容による変動幅が大きい。直近の景況感はさほど良くないと感じている。民間の受注割合を増やしているが、公共よりも入札競争は厳しい。原材料価格は生コンや鋼材の高騰は高止まりしている。入札案件は価格転嫁を行って応札している。 雇用については現場職員を中心に不足しており、新卒採用についても計画通り採用できていない。中途採用についても、技術者については殆ど見つからないため苦慮している。外国人の雇用は、建設現場や折衝業務において言語の問題があり、行っていない。業務改善面で人員を増やし、残業を減らしたいが思うように進まない。

	化 学 工 業	直近の景況感は、さほどよくない。業種的にこの時期の出荷は少ない。高止まりである原材料価格の価格転嫁は一部に留まる。中国市場は供給過剰の状態が続いている。また、中国製の競合製品とのコスト競争が、特にアジア市場で激しくなっている。足元の利益額の増減は為替変動の影響が高い。 原材料については、これまで製造していた国内メーカーが、生産縮小する事例が出てきていることから、海外調達に切り替えるなどの対応を強いられており、輸入に伴うコスト増の影響が出ている。人員面については交代勤務の製造現場要員を中心に不足している。
西播磨	各 種 商 品 小 売 業	景況は良くも悪くもない状況であり、3ヶ月後も同様と予測している。各種商品の値上げが続いているが、値上げはやむを得ないという認識が浸透したこともあり、価格転嫁はほぼできている。 消費動向としては、商品単価が上がったことで客単価は微増となっている。一方、客数は微減となっており、買物回数の減少が考えられる。自動発注システムの導入等により、業務の効率化と従業員の負担軽減を図ることとしている。
	総 合 工 事 業	景況はさほど良くない状況であり、3ヶ月後も同様と予測している。 リフォーム・リノベーション契約については好調だが、新築契約については減少傾向が続いている。このため、注文住宅だけでなく、分譲住宅の販売、古民家をリノベーションしたテナントの整備等にも力を入れている。 大工等の人材が不足するなか、施工管理クラウドの導入等により、業務の一層の効率化を進めている。
但馬	建 設 業	前期比で売上が5%減少しており、景況感さほど良くない状況。地域全体で事業数が減少しており、特に県からの発注事業数が減少、それに伴い売上が減少している。当面同様の状況が続く見込み。 雇用面では、現場施工管理職の不足が著しく、特に30代の中堅層が不足している。現場を回す人材の確保と次世代の育成のため、若手人材の新規雇用が喫緊の課題となっている。また、IoT建機の導入を実施しており、従業員の負担軽減のほか、生産性の向上に繋がっている。
	宿 泊 業	景況感さほど良くも悪くもない状況。インバウンド客数が増加しているものの、国内観光客が減少している。地域全体の観光客数はコロナ禍前比では減少したままの状態。また、かねてから続く原材料等の価格高騰に対して、適宜価格改定を行うことで対応している。高騰分を100%は吸収できないが、節約を心がけることで

		経営に大きな影響は出ていない。 雇用面では、ハローワークでの募集のほか、県外を含む他地域での採用説明会の実施や参加により、新規採用に取り組んでいる。
丹波	観光サービス業	景況感はさほど良くない状況である。昨年同時期と比較し、外国人を含む観光客が増加しており、売上も上昇しているものの、原材料費、人件費等の高騰により、利益が伸びない状況である。 一方、宿泊業の進出が続く予定であり、長期的な売上の増加に期待している。
	飲料・たばこ・飼料製造業	全体としては、景況感は良い状況である。売上はコロナ禍前から堅調な状況が続いており、アジア圏内への輸出量増加が主な要因となっている。 一方、コスト面では、包装資材や原料の価格が高騰しており、価格転嫁を検討せざるを得ない状況である。人件費についても4月からベースアップを予定している。
淡路	宿泊業	年末年始はほぼ横ばいだったが、各種資材の高騰により業況等へマイナスの影響を与えており、今期の景況感はさほど良くない。一方で、大阪・関西万博や、AWAJI 島博の開催などを控えており、今後の見通しは良い。 雇用については、業界全体として慢性的な人員不足が続いているが、外国人採用や、経験・実績のある者の中途採用を予定しているなど、現在は適正な人員で営業できている。また、スマートチェックイン導入による省人化や、食事のみの受入客圧縮等を行い、従業員の勤務体制の改善を図っている。
	建設業	売上については、前年同期比、前期比ではほぼ変化はなく、公共土木工事について多少受注が回復してきているが、全体としては減少傾向にあり、景況感はさほど良くない。また、資材や燃料コストの高騰により、業況等へマイナスの影響を与えている。 雇用については、業界全体で特に技術職の深刻な人材不足が続いており、社内に卒業生がいる学校への訪問や、外国人採用も含めた人材確保に取り組んでいるが、厳しい状況が続いている。また、入社後は本人の意向を尊重し、様々な技術・スキルを身に付けてもらいながら、他部署への異動などの工夫を行っており、離職者は減少傾向にある。

Ⅲ. 景況調査

Ⅰ. 景況調査について

○『D.I. (ディフュージョン・インデックス)』による分析

D.I. とは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、「良い」20%－「悪い」30%＝－10%となり、D.I. 値は－10 ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10 件	20%
不変	25 件	50%
悪い	15 件	30%
合計	50 件	100%

○引用する調査書と有効回答数について

本レポートの作成にあたり、但陽信用金庫が四半期毎に実施する「景気動向調査」の調査結果を引用しています。

(対象期間内における有効回答数)

	エリア	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
景気動向調査 (但陽信用金庫)	取引先全地域	507 件					
中小企業景況調査 (福崎町商工会)	-	1 件	0 件	2 件	3 件	1 件	0 件

○業種の分類について

本レポートでは、飲食・宿泊業は「サービス業」とあわせて集計しています。

2. 概況（全業種総合）

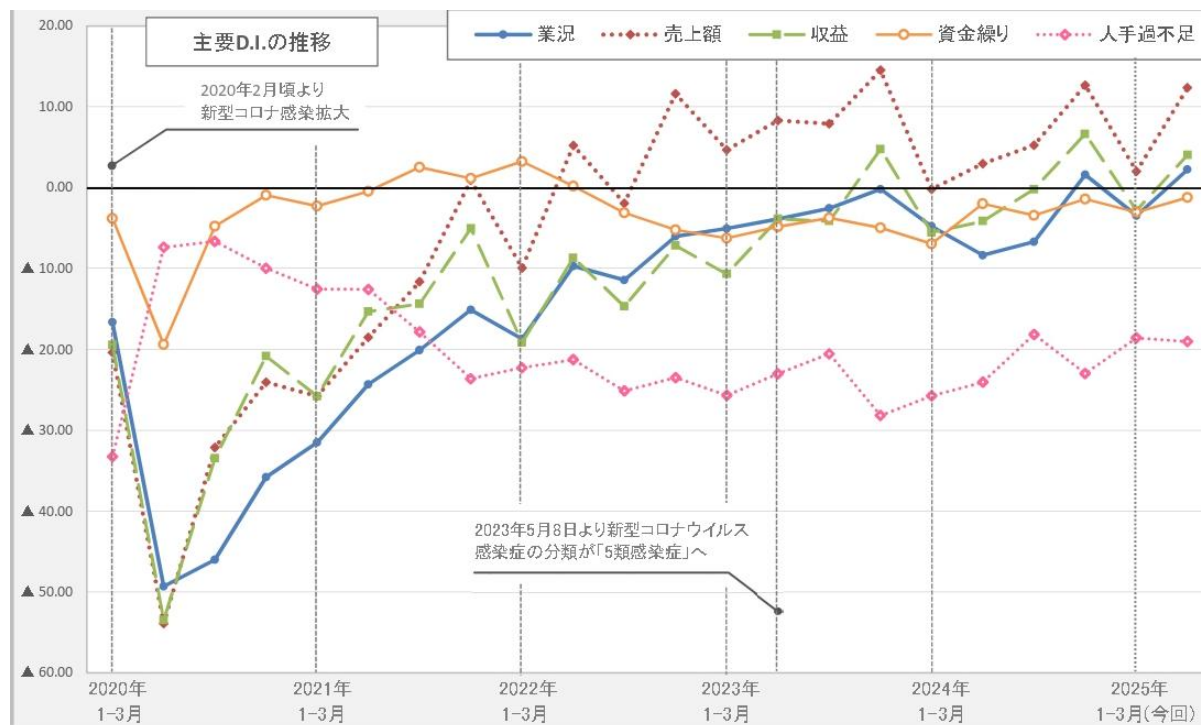
《但陽信用金庫》

今期の全地域・全業種における業況 D.I.は▲3.47 と前期から5.08 ポイント低下しています。売上額 D.I.は前期より低下したものの、4 期連続でプラス域を維持しています。収益 D.I.・資金繰り D.I.も前期より低下し、人手過

不足 D.I.は上昇しています。来期は今期と対称的に業況 D.I.・売上額 D.I.・収益 D.I.・資金繰り D.I.が上昇、人手過不足 D.I.は低下する予想となっています。

前回調査時に、全体の業況 D.I.が 2019 年 4 月以来となるプラス域を記録しましたが、今期は前期の予想通り業況 D.I.は低下しています。どの業種においても材料価格 D.I.、仕入価格 D.I.は高い状態が続いており、原材料・仕入価格の高止まりや円安、米トランプ政権の関税政策の影響など、先行き不透明感が強く、今後を予想しづらい状況と思われます。製造業では、受注先の生産調整の影響を受け、売上が停滞している企業が多く、建設業においては、公共・民間工事の一定の実績が確保できたことから D.I.は上昇、不動産業においては季節的需要による影響もあったものと見られます。大阪・関西万博の開催への期待はありますが、米などの生活必需品を中心とした物価高による節約志向の高まりから、個人消費の伸びは厳しいと見られ、サービス業・小売業においても慎重な見方が続いているものと思われます。

D.I.	2024年10 ～12月期	2025年1 ～3月期 (今回)	前期比	2025年4 ～6月期 (予想)	今期比
業況	1.61	▲ 3.47	↓	2.25	↑
売上額	12.68	2.02	↓	12.35	↑
収益	6.65	▲ 2.83	↓	4.05	↑
資金繰り	▲ 1.41	▲ 3.03	↓	▲ 1.22	↑
人手過不足	▲ 22.98	▲ 18.59	↑	▲ 19.03	↓



《福崎町商工会》

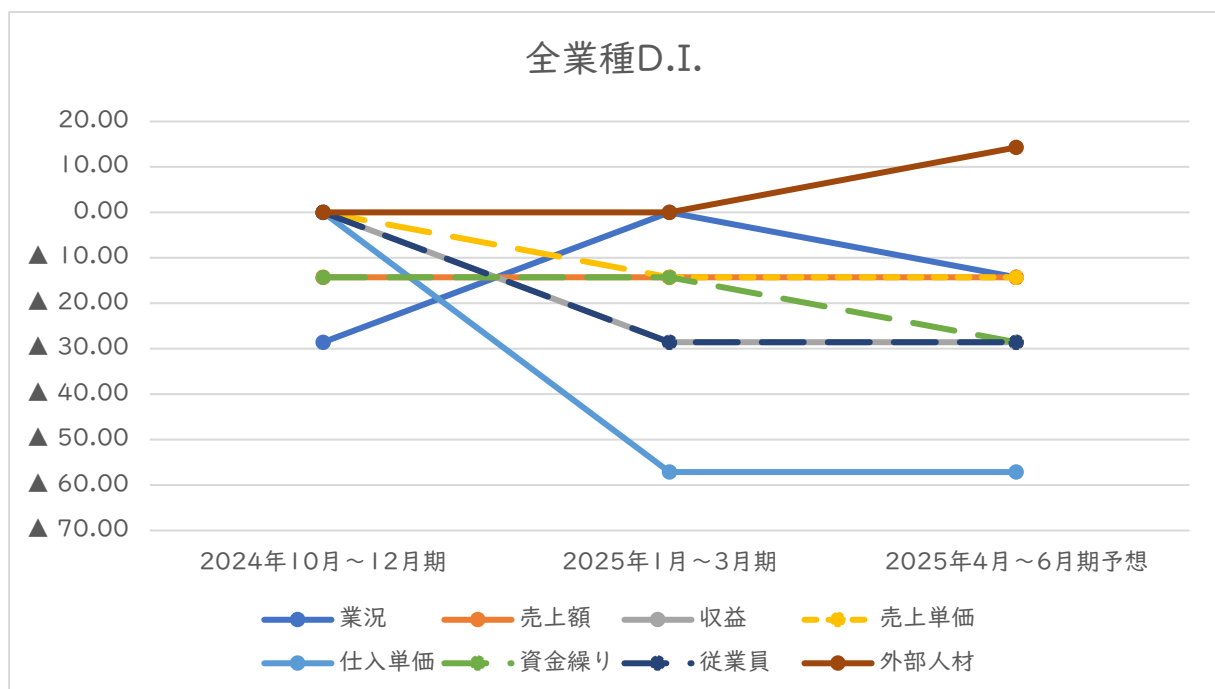
(全業種)	2024 年 10 月～12 月期	2025 年 1 月～3 月期	2025 年 4 月～6 月期予想
業 況	▲ 28.57	0.00	▲ 14.29
売 上 額	▲ 14.29	▲ 14.29	▲ 14.29
収 益	0.00	▲ 28.57	▲ 28.57
売 上 単 価	0.00	▲ 14.29	▲ 14.29
仕 入 単 価	0.00	▲ 57.14	▲ 57.14
資 金 繰 り	▲ 14.29	▲ 14.29	▲ 28.57
従 業 員	0.00	▲ 28.57	▲ 28.57
外 部 人 材	0.00	0.00	14.29

[2025 年 1～3 月期]：マイナスの厳しい状況

当期の業況・外部人材に関する D.I.は 0 ポイントとなり、前期から横ばいとなりましたが、その他の D.I.は低下しました。

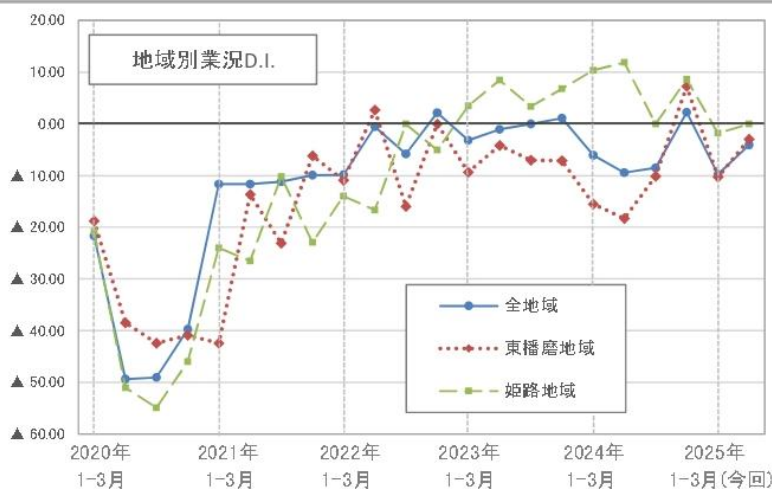
[2025 年 4～6 月期]：さらにマイナスの厳しい状況来期の予想

業況 D.I.は▲14.29 ポイントで悪化予想です。その他の D.I.も低下、外部人材に関する D.I.以外は軒並み低下し、人手不足の影響からか外部人材に関する D.I.は増加しています。



3. 業種ごとの集計《但陽信用金庫》

(1) 製造業 回答企業 178 社 回答率 97.3%



地域別業況D.I.

全地域の業況D.I.は ▲9.77 と前期から 12 ポイント低下、東播磨地域は ▲10.29 と 17.54 ポイント低下、姫路地域は ▲1.79 と 10.41 ポイント低下し、全地域・東播磨地域・姫路地域のすべてがマイナス域となっています。来期は全地域・東播磨地域・姫路地域のすべてが上昇する予想となっています。

地域	2024年10 ~12月期 (回答数)	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
全地域	178	2.23	▲ 9.77 ↓	▲ 4.05	↑
東播磨地域	69	7.25	▲ 10.29 ↓	▲ 2.99	↑
姫路地域	58	8.62	▲ 1.79 ↓	0.00	↑



その他主要D.I.

今期は、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が低下、原材料価格D.I.・人手過不足D.I.は上昇しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が上昇、人手過不足D.I.・原材料価格D.I.は低下する予想となっています。

D.I.	2024年10 ~12月期 (今回)	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
売上額	14.53	0.56	↓	11.24	↑
収益	7.87	▲ 6.74	↓	▲ 3.37	↑
資金繰り	▲ 1.12	▲ 4.49	↓	▲ 3.39	↑
人手過不足	▲ 25.70	▲ 15.73	↑	▲ 16.85	↓
原材料価格	29.61	29.78	↑	25.28	↓

借入の実施

借入した
46社

借入の予定

借入の予定あり
36社

借入しない
132社

借入の予定なし
141社

設備投資の実施

(リース・レンタル含む3つ以内)

事業用土地・建物 10社

機械・設備の新・増設 17社

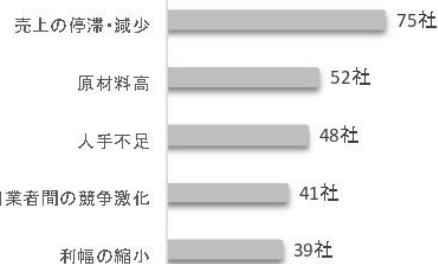
機械・設備の更改 18社

事務機器 6社

車両 3社

実施しない(予定なし)
134社

経営上の問題点
(複数回答 上位5項目)

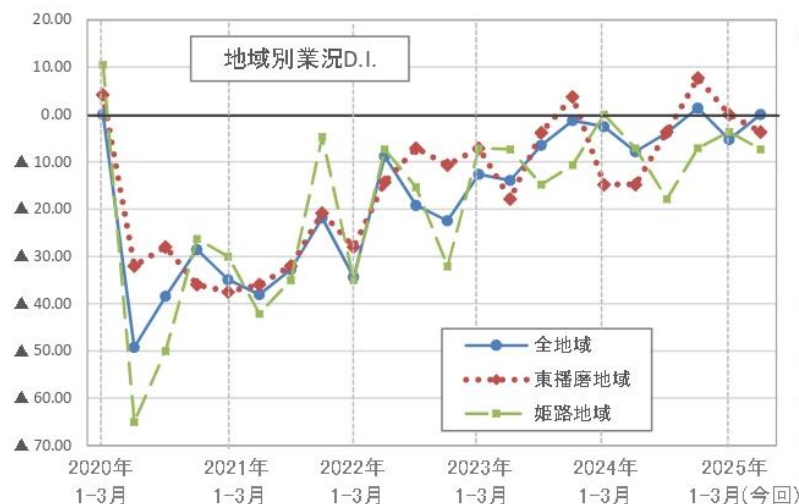


【人件費以外の経費の増加】・光熱費(クランクシャフト製造)

当面の重点経営施策
(複数回答 上位5項目)



(2) サービス業 回答企業 76 社 回答率 98.7%



地域別業況D.I.

全地域の業況D.I.は ▲5.26 と前期から 6.61 ポイント低下、東播磨地域は 0.00 と 7.69 ポイント低下、姫路地域は▲3.70 と 3.44 ポイント上昇しています。来期は全地域が上昇、東播磨地域・姫路地域が低下する予想となっています。

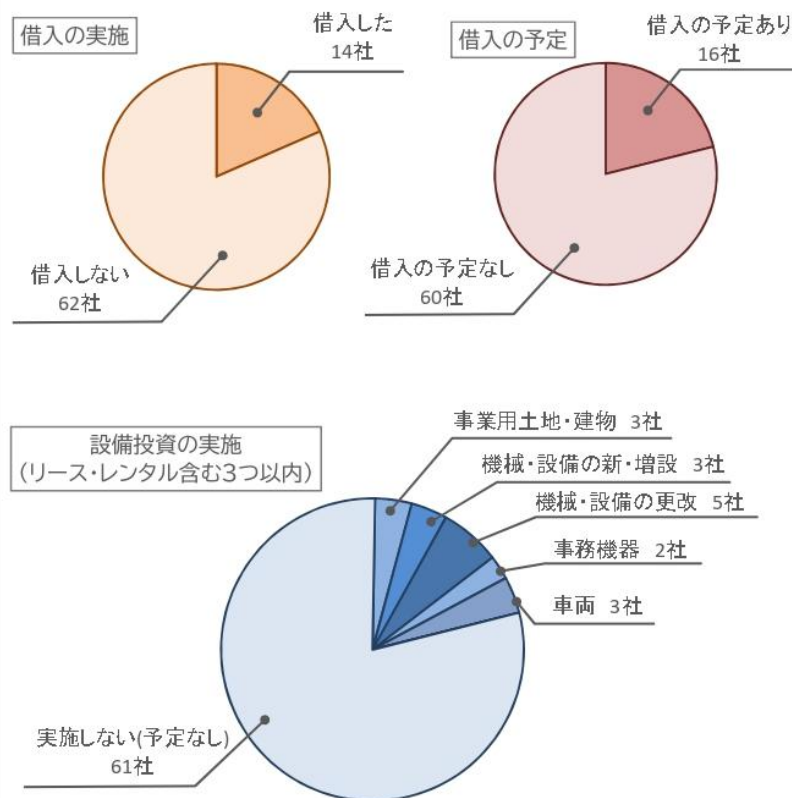
地域	2024年10 ~12月期 (回答数)	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
全地域	76	1.35	▲ 5.26 ↓	0.00	↑
東播磨地域	27	7.69	0.00 ↓	▲ 3.70	↓
姫路地域	27	▲ 7.14	▲ 3.70 ↑	▲ 7.41	↓



その他主要D.I.

今期は、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・材料価格D.I.が低下、人手過不足D.I.は上昇しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が上昇、人手過不足D.I.・材料価格D.I.は低下する予想となっています。

D.I.	2024年10 ~12月期	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
売上額	10.81	▲ 7.89	↓	3.95	↑
収益	13.51	0.00	↓	5.26	↑
資金繰り	1.35	▲ 7.89	↓	▲ 3.95	↑
人手過不足	▲ 26.67	▲ 25.00	↑	▲ 27.63	↓
材料価格	36.49	31.58	↓	17.11	↓



経営上の問題点
(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策
(複数回答 上位5項目)



(3) 不動産業 回答企業 31 社 回答率 100.0%



地域別業況D.I.

全地域の業況D.I.は▲13.33 と前期から 横ばい、東播磨地域は▲22.73 と 8.44 ポイント低下、姫路地域は 16.67 と 30.96 ポイント上昇しています。来期は全地域・東播磨地域が上昇、姫路地域は低下する予想となっています。

地域	2024年10 ~12月期 (回答数)	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
全地域	31	▲ 13.33	→	▲ 10.00	↑
東播磨地域	22	▲ 22.73	↓	▲ 9.09	↑
姫路地域	7	▲ 14.29	16.67 ↑	▲ 16.67	↓

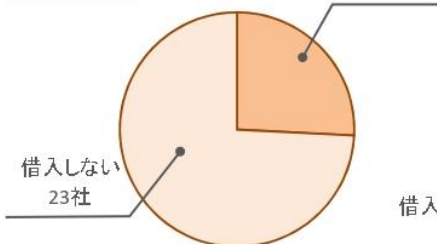


その他主要D.I.

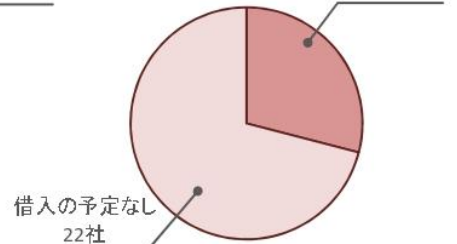
今期は、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が上昇、人手過不足D.I.・仕入価格D.I.は低下しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・人手過不足D.I.が上昇、資金繰りD.I.・仕入価格D.I.が低下する予想となっています。

D.I.	2024年10 ~12月期	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
売上額	3.33	6.45 ↑		12.90 ↑	
収益	3.33	6.45 ↑		9.68 ↑	
資金繰り	3.33	9.68 ↑		6.45 ↓	
人手過不足	▲ 6.67	▲ 9.68 ↓		▲ 6.45 ↑	
仕入価格	26.67	16.67 ↓		13.33 ↓	

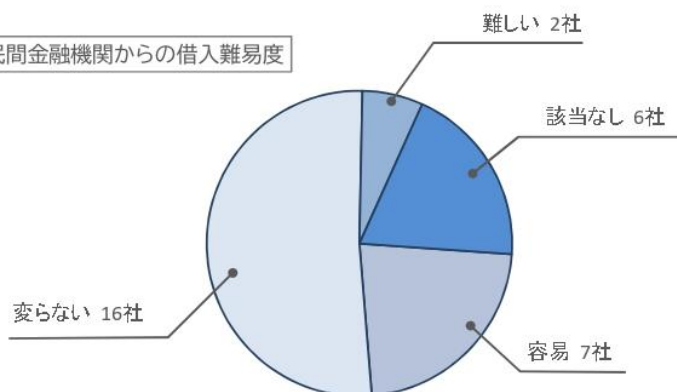
借入の実施



借入の予定



民間金融機関からの借入難易度



経営上の問題点
(複数回答 上位5項目)

同業者間の競争激化	11社
商品物件の不足	11社
売上の停滞・減少	7社
商品物件の高騰	7社
人手不足	6社

当面の重点経営施策
(複数回答 上位5項目)

情報力を強化する	17社
宣伝・広告を強化する	8社
人材を確保する	7社
提携先を見つける	6社
販路を広げる	5社

(4) 小売業 回答企業 65 社 回答率 98.5%



地域別業況D.I.

全地域の業況D.I.は▲10.77と前期から9.25ポイント低下しています。東播磨地域は▲9.09と22.73ポイント低下、姫路地域は▲7.14と7.14ポイント低下と全地域・東播磨地域・姫路地域のすべてで低下しています。来期は全地域が上昇、東播磨地域が低下、姫路地域は横ばいの予想となっています。

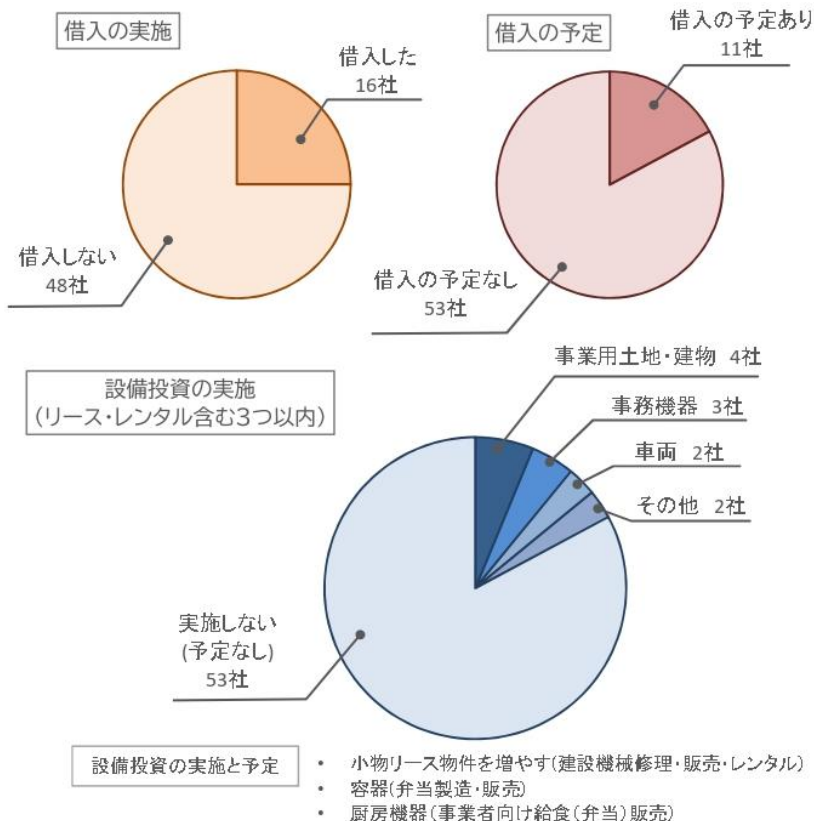
地域	(回答数)	2024年10 ~12月期	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
全地域	65	▲1.52	▲10.77	↓	▲9.23	↑
東播磨地域	22	13.64	▲9.09	↓	▲13.64	↓
姫路地域	28	0.00	▲7.14	↓	▲7.14	→



その他主要D.I.

今期は売上額D.I.・収益D.I.が低下、資金繰りD.I.・人手過不足D.I.・仕入価格D.I.は上昇しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.・仕入価格D.I.の主要D.I.すべてが上昇する予想となっています。

D.I.	2024年10 ~12月期	2025年1 ~3月期 (今回)	前期比	2025年4 ~6月期 (予想)	今期比
売上額	9.09	3.08	↓	4.69	↑
収益	▲6.06	▲13.85	↓	▲9.38	↑
資金繰り	▲9.09	▲7.69	↑	▲3.13	↑
人手過不足	▲21.54	▲18.46	↑	▲15.63	↑
仕入価格	27.27	38.46	↑	40.63	↑



経営上の問題点
(複数回答 上位5項目)

売上の停滞・減少	30社
仕入先からの値上げ要請	18社
人手不足	16社
同業者間の競争激化	16社
利幅の縮小	16社

【その他の問題点】・衛星リスク(事業者向け給食(弁当)販売)

当面の重点経営施策
(複数回答 上位5項目)

経費を節減する	31社
宣伝・広告を強化する	21社
売れ筋商品を取扱う	14社
品揃えの改善	13社
人材を確保する	12社

【その他の重点経営施策】・衛生管理(事業者向け給食(弁当)販売)

(5) 卸売業 回答企業 48 社 回答率 100.0%



地域別業況D.I.

全地域の業況D.I.は▲10.42 と、前期から横ばい、東播磨地域は▲25.00 と 10.00 ポイント低下、姫路地域は 0.00 と 8.70 ポイント上昇しています。来期は全地域・東播磨地域が上昇、姫路地域は横ばいの予想となっています。

地域 (回答数)	2024年10 ～12月期	2025年1 ～3月期 (今回)	前期比	2025年4 ～6月期 (予想)	今期比
全地域 48	▲ 10.42	▲ 10.42	→	0.00	↑
東播磨地域 20	▲ 15.00	▲ 25.00	↓	0.00	↑
姫路地域 23	▲ 8.70	0.00	↑	0.00	→

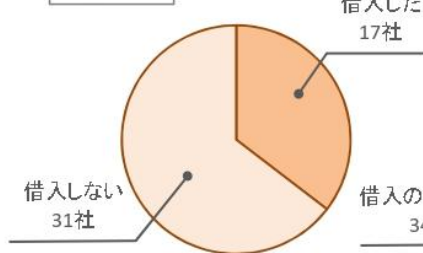


その他主要D.I.

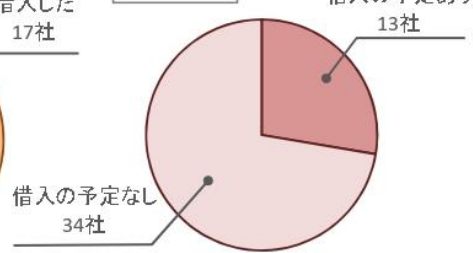
今期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・仕入価格D.I.が低下、人手過不足D.I.が上昇しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が上昇、人手過不足D.I.は横ばい、仕入価格D.I.は低下する予想となっています。

D.I.	2024年10 ～12月期	2025年1 ～3月期 (今回)	前期比	2025年4 ～6月期 (予想)	今期比
売上額	10.42	▲ 12.50	↓	27.08	↑
収益	▲ 2.08	▲ 18.75	↓	10.42	↑
資金繰り	▲ 6.25	▲ 8.33	↓	▲ 6.25	↑
人手過不足	▲ 14.58	▲ 6.25	↑	▲ 6.25	→
仕入価格	41.67	27.08	↓	22.92	↓

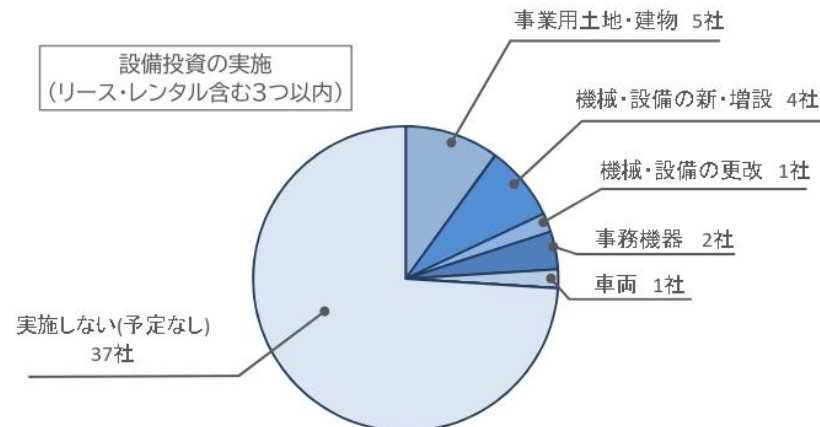
借入の実施



借入の予定



設備投資の実施
(リース・レンタル含む3つ以内)



経営上の問題点
(複数回答 上位5項目)

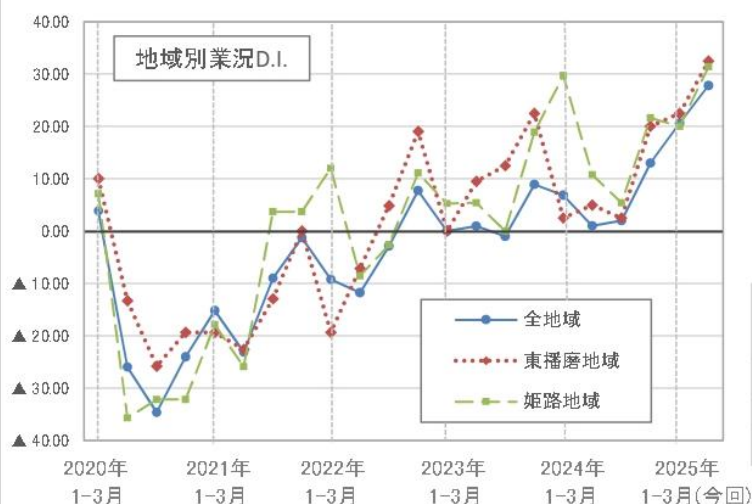


【その他の問題点】・輸送費コスト増加(冷凍食品卸売)

当面の重点経営施策
(複数回答 上位5項目)



(6) 建設業 回答企業 97 社 回答率 95.1%



地域別業況D.I.

全地域の業況D.I.は 20.62 と前期から 7.62 ポイント上昇、東播磨地域は 22.50 と 2.50 ポイント上昇、姫路地域は 20.00 と 1.62 ポイント低下しています。来期は全地域・東播磨地域・姫路地域のすべてで上昇する予想となっています。

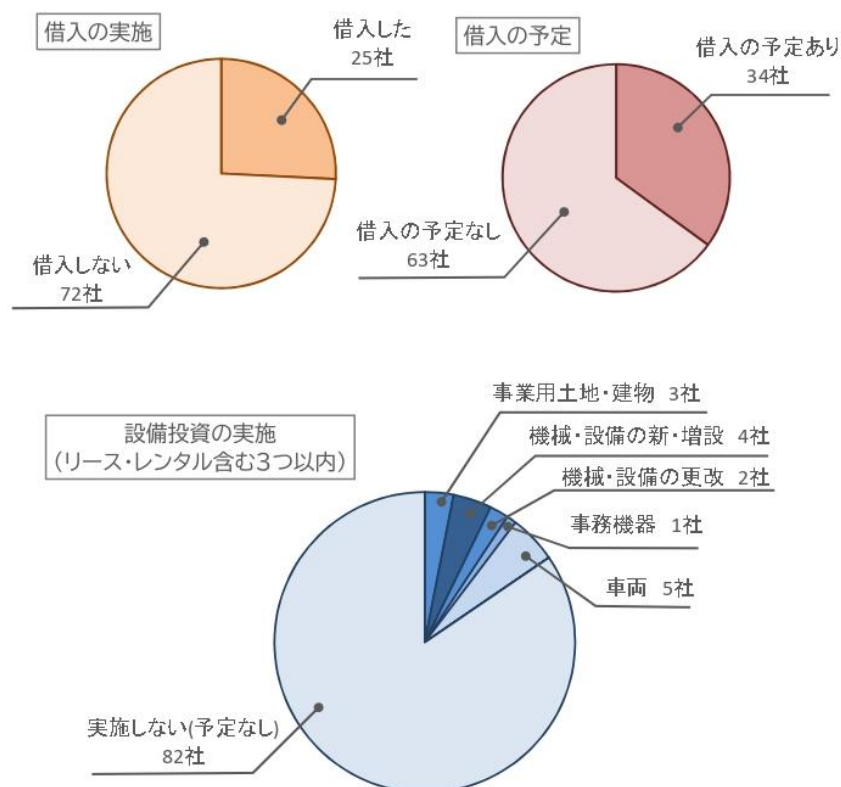
地域	(回答数)	2024年10 ～12月期	2025年1 ～3月期 (今回)	前期比	2025年4 ～6月期 (予想)	今期比
全地域	97	13.00	20.62	↑	27.84	↑
東播磨地域	40	20.00	22.50	↑	32.50	↑
姫路地域	35	21.62	20.00	↓	31.43	↑



その他主要D.I.

今期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が上昇、人手過不足D.I.・材料価格D.I.は低下しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が上昇、人手過不足D.I.・材料価格D.I.は低下する予想となっています。

D.I.	2024年10 ～12月期	2025年1 ～3月期 (今回)	前期比	2025年4 ～6月期 (予想)	今期比
売上額	17.00	17.53	↑	18.56	↑
収益	13.00	14.43	↑	20.62	↑
資金繰り	2.00	5.15	↑	6.25	↑
人手過不足	▲ 25.25	▲ 27.84	↓	▲ 28.87	↓
材料価格	40.00	39.18	↓	37.11	↓



経営上の問題点
(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策
(複数回答 上位5項目)

